

学校関係者評価委員会 議事録

令和6年9月26日(木)

16時～17時

於 102教室

出席者

委員：弘嶋 謙二 美崎 有紀 山中 美智子 明神 聡

前田 理佐 西森 康夫(欠席)

オブザーバー：野町 裕 片岡 幸恵 大黒 佐智男 石元 美佐

山下 昌世 池田 篤史

1. 開会
2. 校長より挨拶
3. 委員自己紹介
4. 本校の教育について説明(現況報告)
5. 令和5年度自己点検・評価報告(校長) 別紙添付
6. 学校関係者評価および意見交換・検討

明神委員：全国には沢山の大学や専門学校がある。その中から龍馬学園を選んで入学してくれている。これは嬉しいことだと思う。

学力向上を目指した取り組み(ベネッセの学力試験)を行うことで、学生たちは自分の学力を知り、国家試験(看護学科)に臨むことができるので良い取り組みだと思う。

勉強嫌いの学生もいると思うが、寄り添った学生指導を先生たちには行ってもらいたい。

校長：近年、学生の学力は低下している。学校としては対策を考え取り組みをしているが、昨年度の当校の看護師国家試験の合格率は平均より下回る結果となって残念だった。

学生募集においては、全国的にみても看護学科が厳しい状態である。また子どもも未来学科も減少している。幼児教育に興味がある高校生は減少していないように聞いているが、なぜ当校の募集が伸び悩んでいるのか分析する必要がある。

山中委員：看護の現場に入ってくる学生は国家試験に合格しているので、学科はとても良い成績を取っていると思うが、コミュニケーション能力が低く、言っているこ

とが理解できない人がいて困っている。学生時代、学校や実習先ではどうだったのかと思いながら指導を行っている。

弘嶋委員：少子高齢化がどんどん進む中、学生募集は苦勞すると思う。医療福祉は国が給料上げると言いながら実際のところは行き詰まっている施設がある。そのような社会に高校生や保護者は夢を描けるのかと思う。学校では具体的な夢を描けるような教育をしてほしい。

美崎委員：コミュニケーション能力を育てるという教育目標はとても良いと思う。私共の園でも園全体がチームとなって取り組んでいる。

学生時代に手厚くサポートし過ぎると、社会に出たときにいろんな場面で対応できない人になってしまうのではないかと思う。そのことを踏まえた教育を行ってほしい。

前田委員：私共では新規採用者が困らないように一つひとつ仕事を教えるようにしていたが、逆にそれが攻められているように感じたようで、辞めたいと言ってきた。

そのようなことがあり、今では細心の注意を払いながら、言葉を選び言い方にも気を付けて指導をしている。

学校でも退学者防止対策に苦勞しているようだが、その辺りを聞かせてほしい。

校長：これからは当校のような堅いイメージ（勉強や実習をしっかりと行い、試験では一定の点数を取らないといけない）のある学科は募集が厳しくなると思う。

頑張れる学生が少なくなってきたので、手厚いサポートが必要になってきている。それが良いとは思っていない。社会に出たときに困るのではとも思っている。しかしサポートをしないと退学に繋がっていく。私たち教員のその辺りは分かっているので、それぞれがいろんな思いを抱えながら学生たちに向き合っている。

6. 閉会の挨拶（校長）

本日は、貴重なご意見やご提案をありがとうございました。ここに出席していない教職員にも共有して今後の教育活動に活かしていきます。

今後とも当校及び学園の発展にご協力いただきたいと思います。

本日はありがとうございました

以上